令和元年度事業評価監視委員会（第３回）資料

資　料　２－１

重点審議事業

道路事業　事後評価

一般国道4号　渋民（しぶたみ）バイパス

令和2年3月19日
国土交通省　東北地方整備局

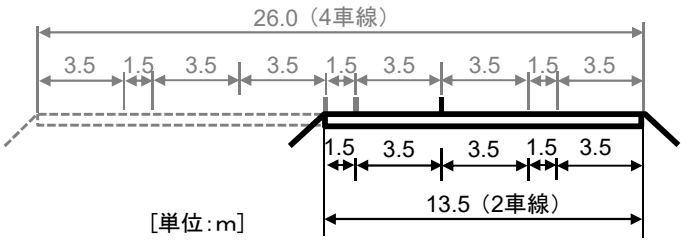
1. 事業の目的と概要（1）

事業完了後5年経過

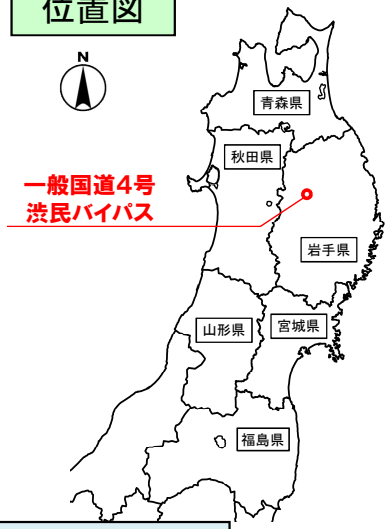
○事業目的

- 国道４号盛岡市渋民地区内の交通混雑緩和
- 沿道環境の改善
- 冬期の幹線道路の信頼性確保

標準横断図（幅員）



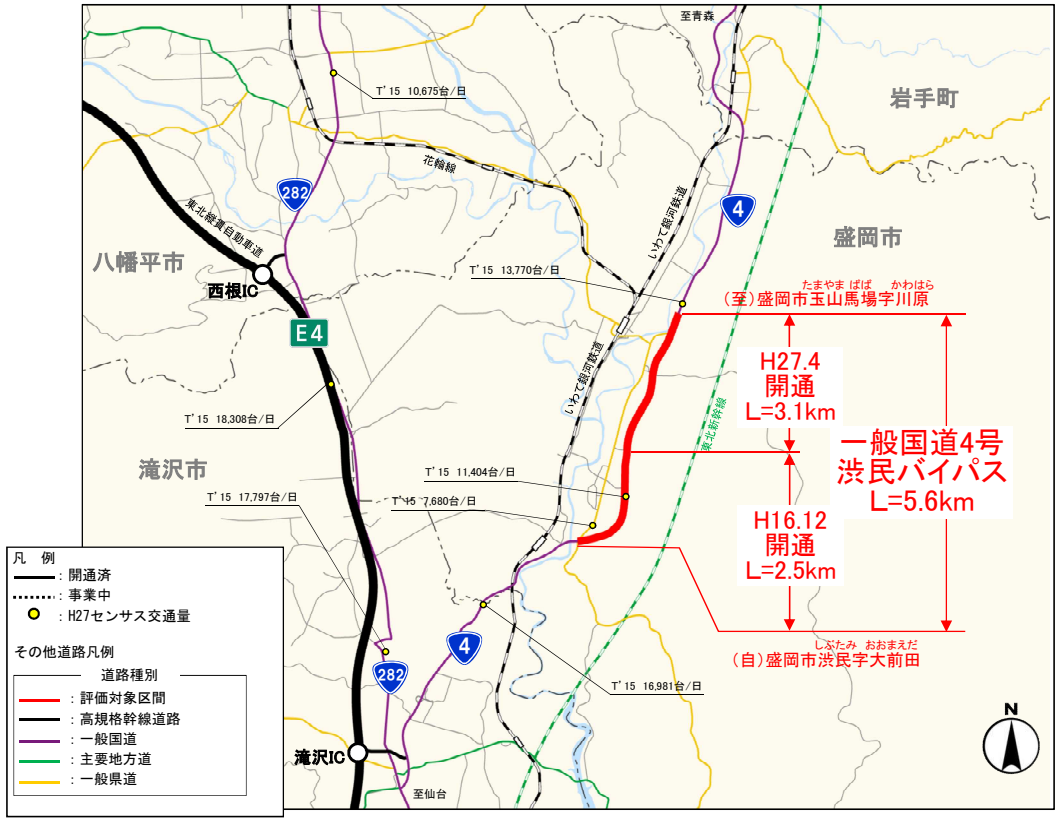
位置図



渋民バイパス 計画概要

起終点	：自）岩手県盛岡市渋民（しぶたみ）字大前田（おおまえだ）
	至）岩手県盛岡市玉山馬場（たまやまばば）字川原（かわはら）
延長	：５．６ｋｍ
道路規格	：第３種第１級　設計速度：８０ｋｍ/ｈ
事業化	：昭和６１年度
用地着手	：平成　２年度
都市計画決定	：平成　３年度
工事着手	：平成　８年度
部分開通	：平成１６年度（Ｈ１６．１２．１８）
全線開通	：平成２７年度（Ｈ２７．４．１２）

渋民バイパス　位置図



1. 事業の目的と概要（2）整備状況

事業完了後5年経過

①起点から終点方向【R1.8】



②終点から起点方向【R1.8】

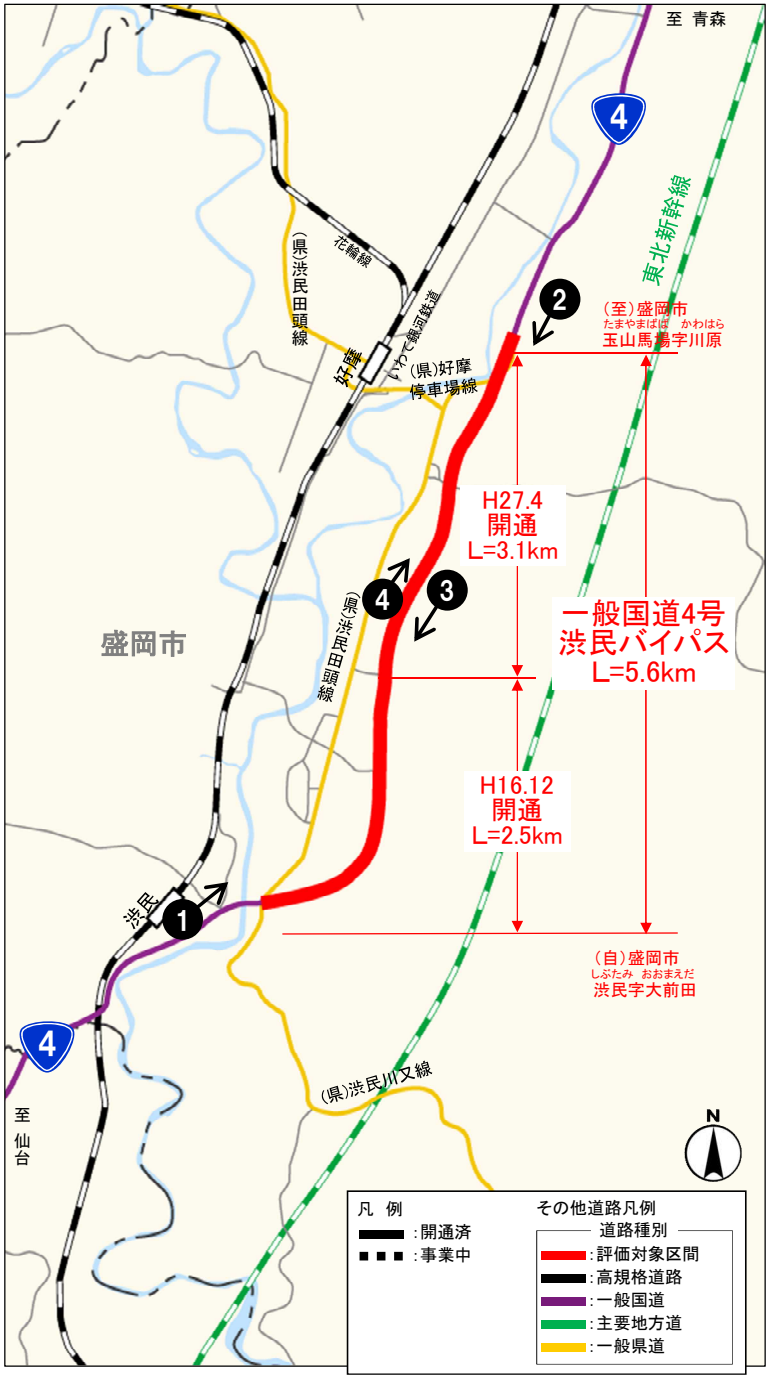


③H16.12部分開通区間【H27.7】



④H27.4開通区間【H27.7】





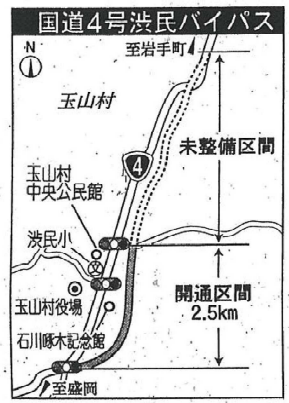
1. 事業の目的と概要（3）開通記事

国道4号渋民バイパス
きょう部分開通

国土交通省が玉山村渋民地内で整備を進めている一般国道4号渋民バイパスは十八日午後一時、部分開通する。

部分開通するのは計画している全体延長5・6㌔のうち、船田橋から村道山屋馬場線に至るまでの2・5㌔。暫定二車線で部分利用される。

全線開通する時期は未定だが、将来的には四車線化する計画にもなっている。総事業費は約百三十億円。一九八六年に事業着手し、九六年に本格工事がスタートした。



同省岩手河川国道事務所によると、整備区間の旧国道4号は、一日当たり約二万三千六百台の車両が通行（九九年）。村役場前交差点付近は、幅も狭く朝夕を中心に慢性的な渋滞を引き起こしていた。安全面確保も含め、バイパスの早期整備が待ち望まれていた。

部分利用開始により、一日当たり約七千台の通過交通が転換され、渋滞緩和が図られる見込み。全線開通されると約一万三千九百台が転換されるという。

資料：岩手日報（H16.12.18付）

渋民バイパス全線開通

国土交通省岩手河川国道事務所が整備してきた盛岡市玉山区の国道4号渋民バイパス（延長5・6㌔）の未整備区間3・1㌔が暫定2車線で完成し12日、事業着手から29年を経て全線開通した。地域の悲願であった現道（同5・3㌔）の慢性的な渋滞を緩和する。同事務所は車両の移動時間が8分短縮すると試算。県央と県北をつなぐ新たな大動脈として物流をはじめ社会の高速化を支える。

【関連記事22面】

盛岡・玉山 国道4号

着手29年、渋滞緩和

会場式典を同市玉山区川崎の市渋民運動公園総合体育館で行い、関係者や市民ら約250人が集まり、テープカットとくす玉開きで全線開通を祝った。

今回開通した延長3・1㌔は同バイパスのうち北側に当たり、同区馬場字川原の北口と同区渋民字鶴飼をつなぐ。

同バイパスは1986年度に事業着手し、南側にあたる同区渋民字鶴飼から同区渋民字大前田の南口までの延長2・5㌔は2004年12月に暫定2車線で開通していた。総事業費は約100億円。幅員は現道の8～12㍍から13・5㍍となり、最高速度は時速60㌔のみとなる。

現道の南口付近とJGRいわて銀河鉄道好摩駅に向かう県道129号交差点の2カ所で朝夕や冬季に発生していた渋滞が緩和する。1日交通量は県道129号交差点で10年が1万5800台と、渋滞の目安とされる1万4千台を超えていた。

渋民地区中心部の現道の一部には歩道がないため歩行者の安全にもつながる。

同事務所は同地区中心部の現道の1日交通量を10年の1万4600台から30年には6900台、バイパスは10年の6450台から1万5900台と試算する。

計画は全線4車線で、同事務所は交通量の状況を見極めて実施時期を判断する。



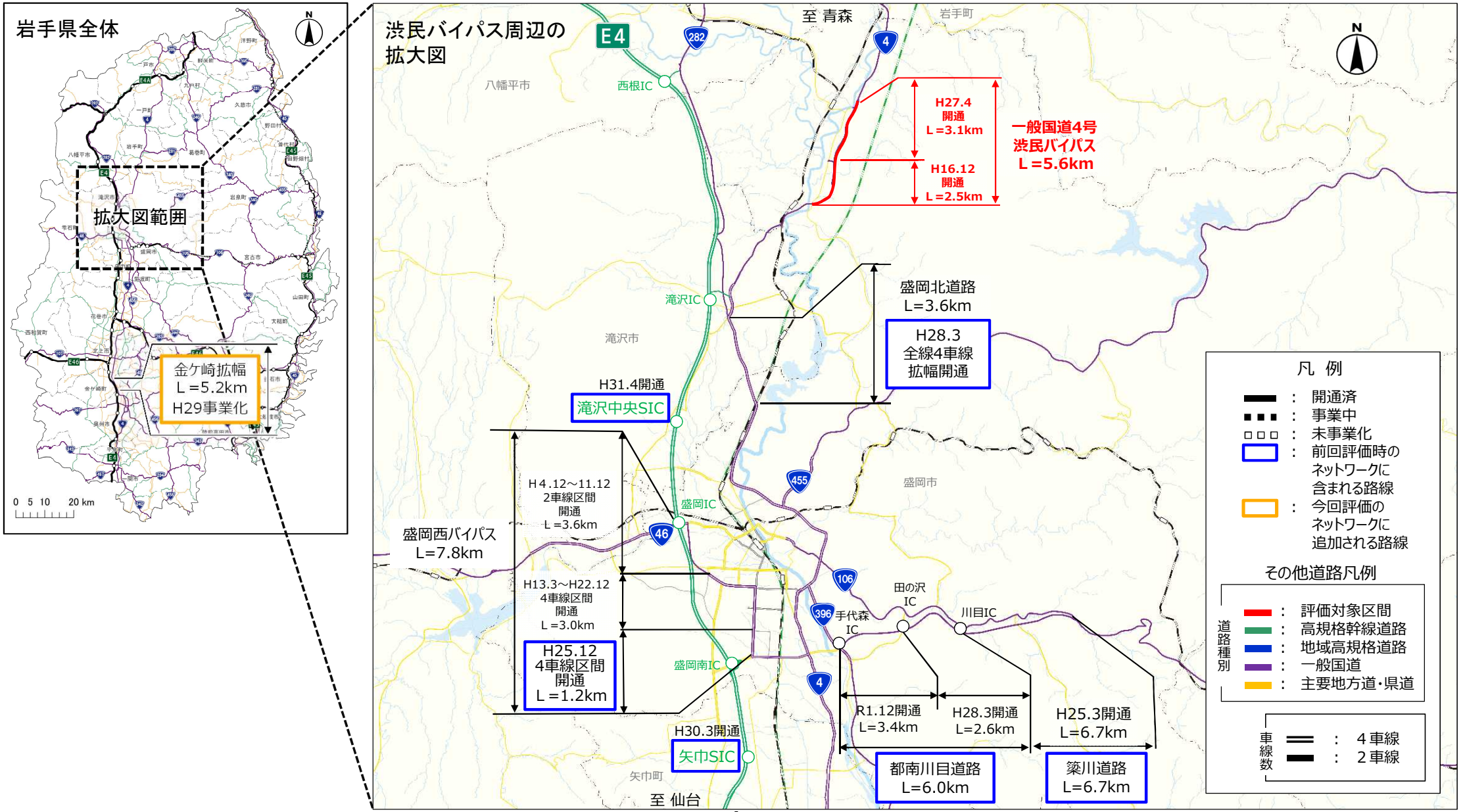
国道4号渋民バイパスの全線開通をテープカットやくす玉開きで祝う関係者＝盛岡市玉山区渋民



資料：岩手日報（H27.4.13付）

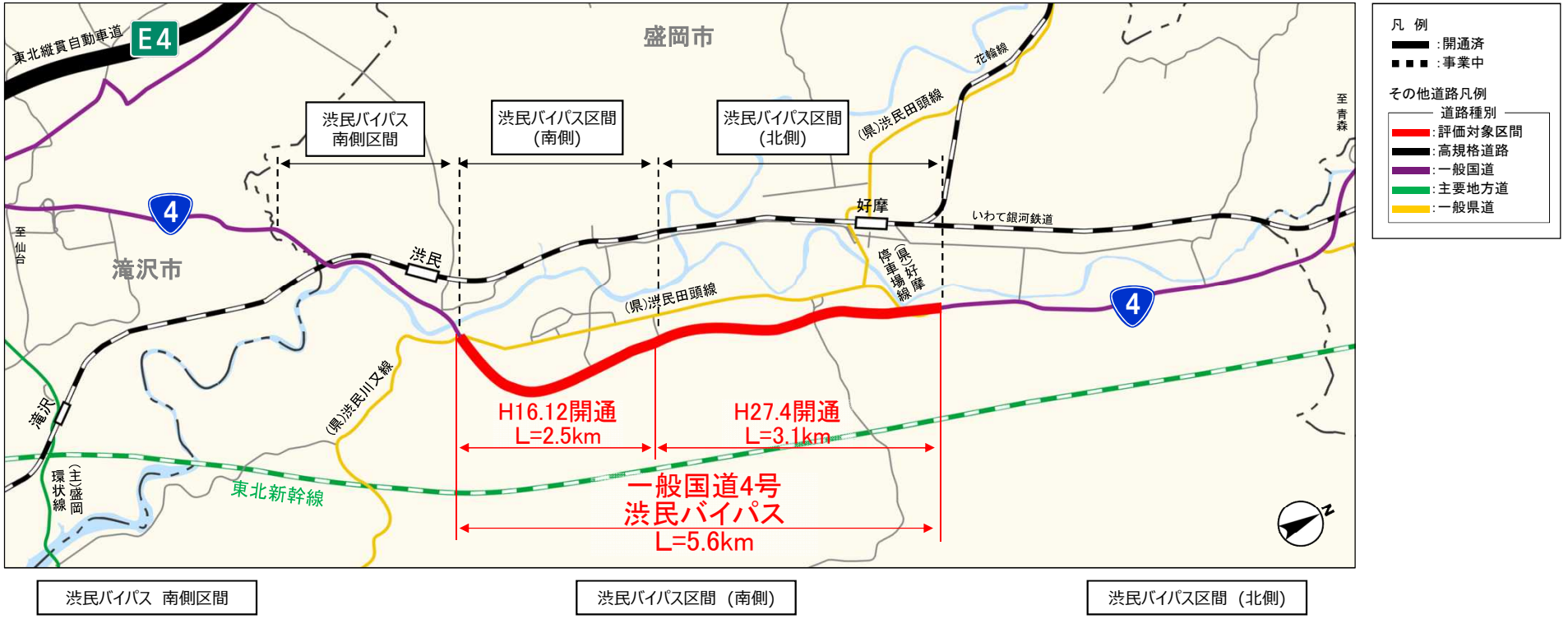
2. 前回評価時からの周辺環境等の変化

◆簗川道路は平成25年3月に開通。盛岡西バイパスは平成25年12月に全線開通。盛岡北道路は平成28年3月に全線4車線拡幅。
◆矢巾SICは平成30年3月、滝沢中央SICは平成31年4月に開通。都南川目道路は令和元年12月8日に全線開通。
◆金ケ崎拡幅は平成29年度に新規事業化。

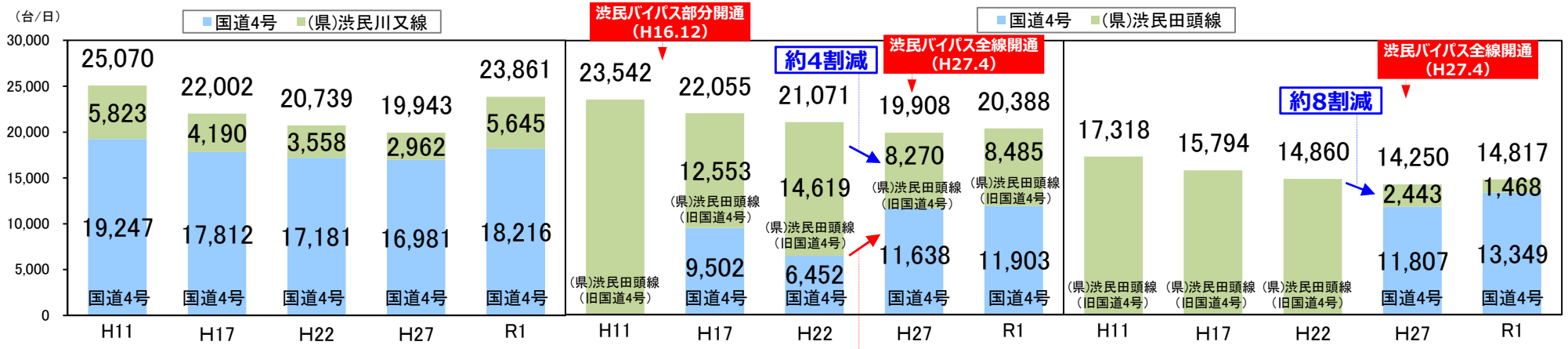


3. 交通状況の変化等（1） 交通量

◆対象区間の最新の利用交通量は約11,903台/日（渋民バイパス南側区間）。
◆平成27年4月の北側3.1km開通によって、既開通区間の交通量は約1.8倍に増加。



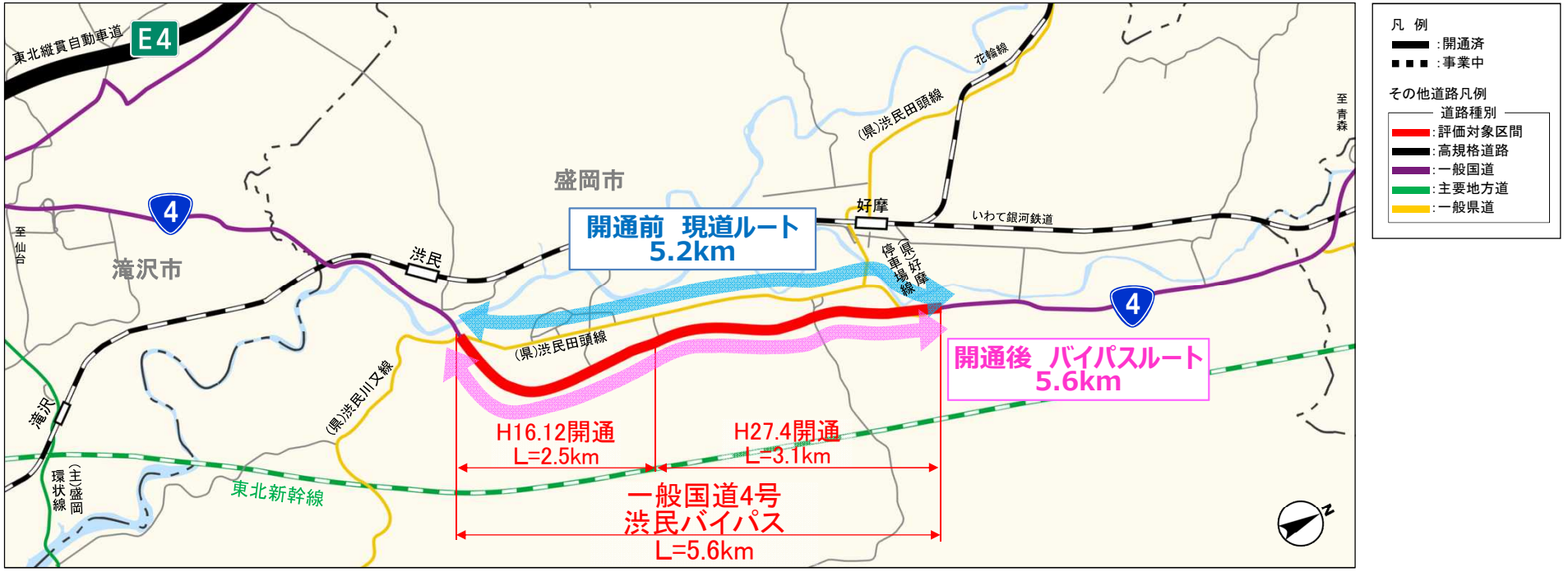
渋民バイパス 南側区間　　渋民バイパス区間（南側）　　渋民バイパス区間（北側）



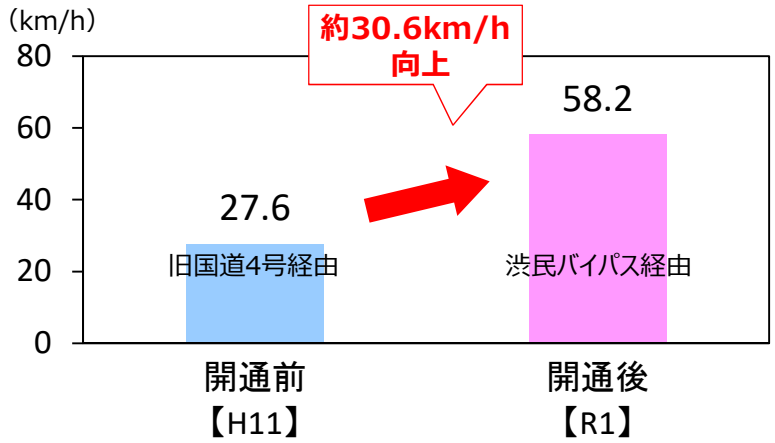
資料：H11～H22 全国道路・街路交通情勢調査
R1年は渋民BP南口・北口交差点のR1.11.12(火)・13(水)12h交通量調査結果の平均値を使用。
H27年はH27.7.7(火)12h交通量調査結果を使用。H22センサス昼夜率より算出。
※H27全国道路・街路交通情勢調査値は(県)渋民田頭線（旧国道4号）区間を南北同一区間として設定しているため実測値を使用。

3. 交通状況の変化等（2） 所要時間等

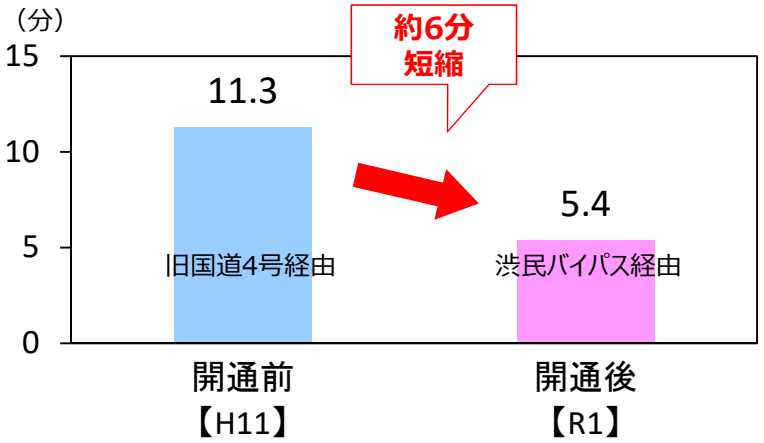
◆渋民バイパスを利用することで、整備区間の平均速度が約30.6km/h向上し、所要時間が約6分短縮。



▼渋民バイパス区間の平均速度の変化



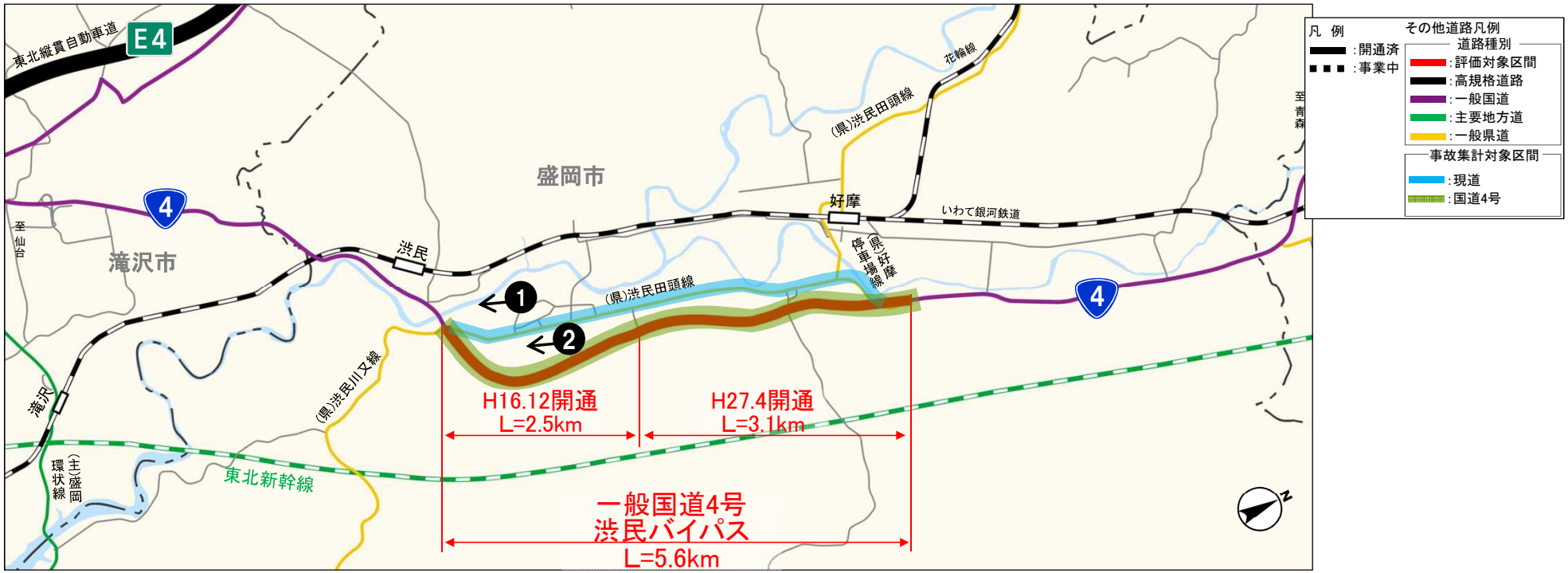
▼渋民バイパス区間の所要時間の変化



資料：H11全国道路・街路交通情勢調査（平日混雑時）、
ETC2.0プローブデータ（様式2-3、R1.10平日、混雑時(7-8・17-18時台)上下平均）

4. 事業効果の発現状況（1） 事故減少

◆開通前は混雑に起因する追突事故の危険により安全性が低かったが、開通後の事故件数はバイパスも含め約9割減少。
◆事故類型別では、正面衝突、追突などの車両相互による事故等が3件/2年に減少し、安全性が向上。



❶ ▼開通前の現道状況



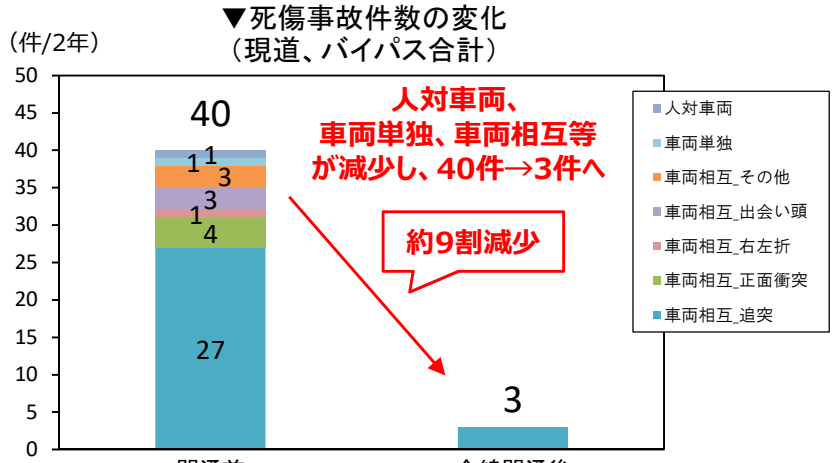
H26.11.18撮影

❷ ▼開通前の現道状況



H18.1.19撮影

▼死傷事故件数の変化
（現道、バイパス合計）



資料：イタルダデータ

《沿線企業通勤者の声》

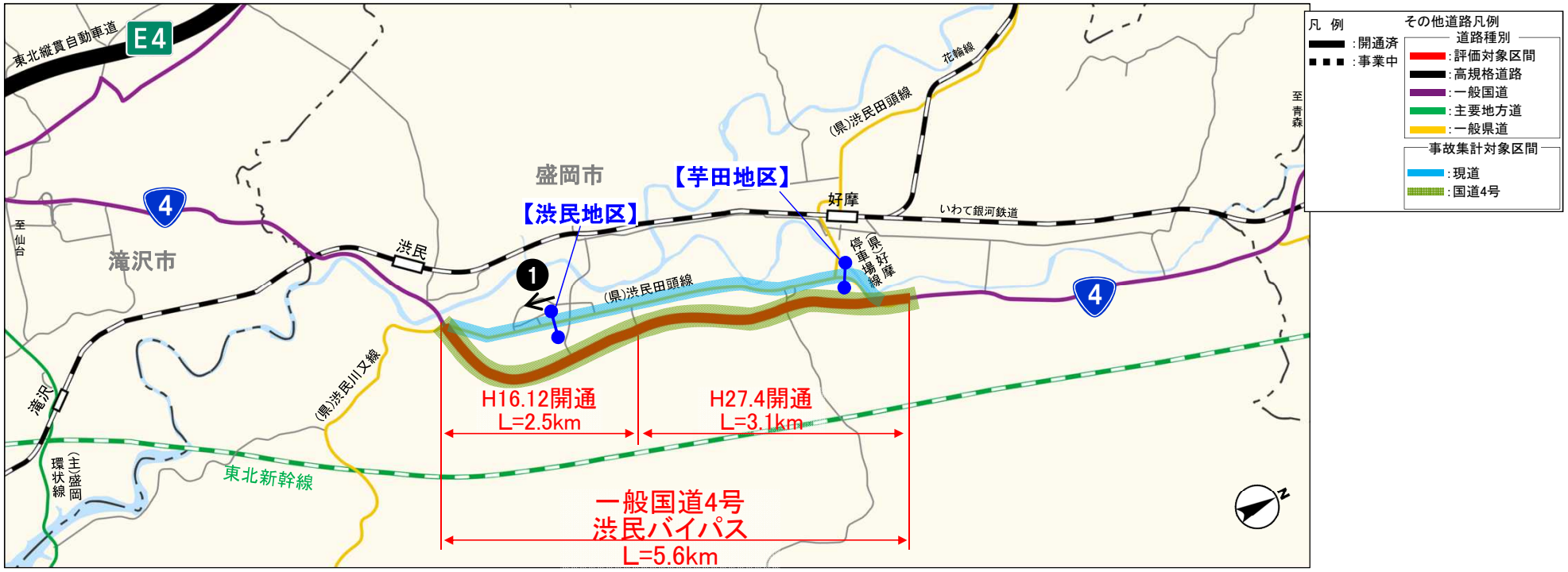
◆開通により、通勤時は旧国道4号((県)渋民田頭線)から国道4号(バイパス)利用に変更した。

◆交通事故による遅れなどが発生していたが、開通によりスムーズで**安全な走行が可能**となった。

（R2.1 沿線企業ヒアリング結果）

4. 事業効果の発現状況（2） 環境改善

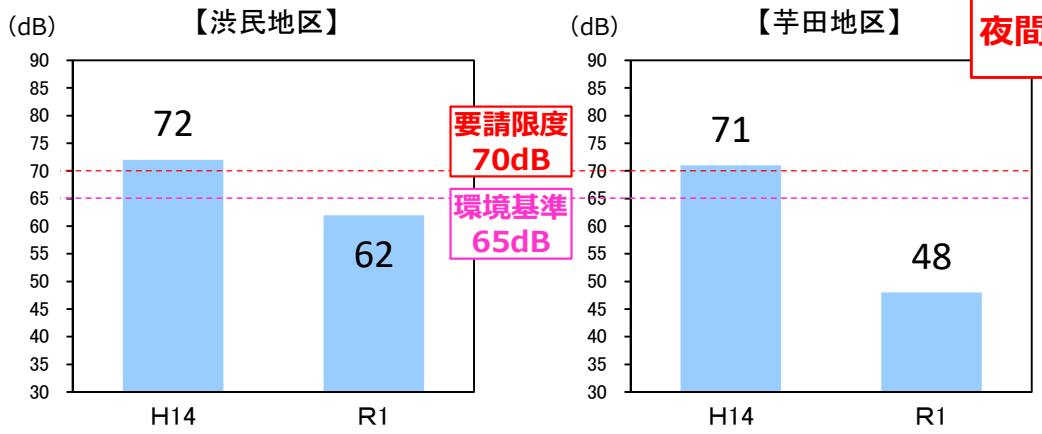
◆開通前は対象区間現道に迂回路がなかったため、大型車を含めた交通が集中し、夜間の騒音レベルが環境基準を超過していた。
◆沿道の騒音は、全線開通後に夜間環境基準65dBを下回った。



▼❶ 開通前・部分開通区間の大型車走行状況



▼旧国道4号（(県)渋民田頭線）の夜間騒音レベルの変化



資料：騒音調査結果

全線開通後、夜間環境基準を下回る

《旧国道4号((県)渋民田頭線)沿線居住者の声》

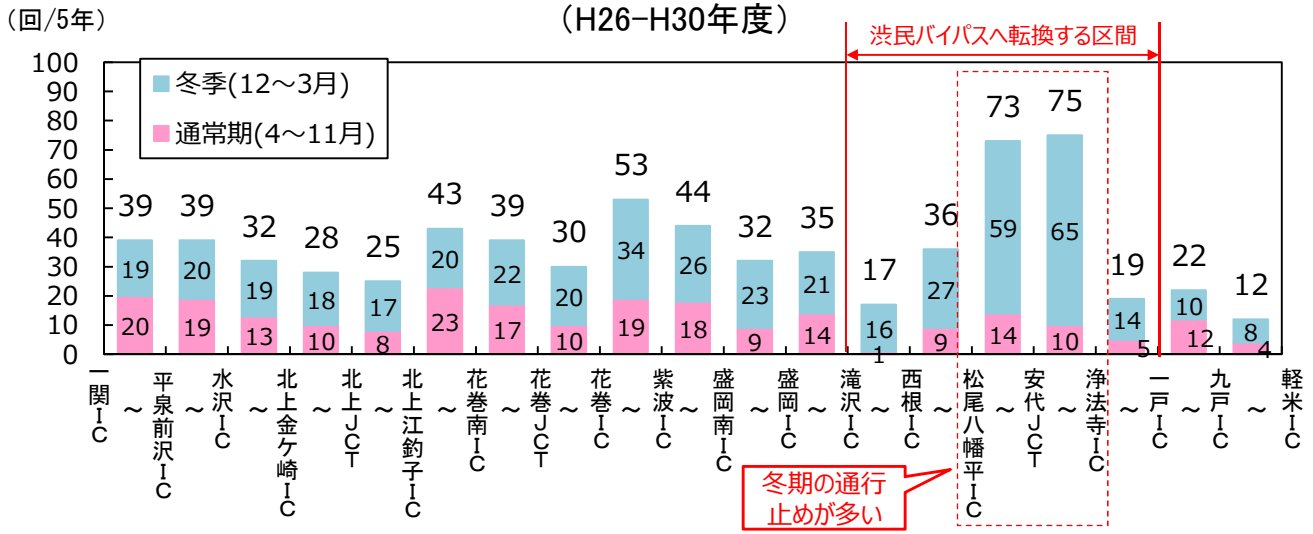
◆渋民バイパスの全線開通によってトラックなどの大型車の交通量が減少し、**走行時の騒音に加えて振動も減少**した。

（R2.1 沿線居住者ヒアリング結果(男性、60代)）

4. 事業効果の発現状況（3） 災害時の信頼性が向上

◆東北縦貫自動車道・八戸自動車道では冬期通行止めが頻発し、迂回交通が国道4号へ転換。
◆H22年12月31日～H23年1月1日の大雪等、渋民バイパス並行現道（旧国道4号）で災害による通行規制が発生。
◆渋民バイパスの整備により代替性を確保でき、災害時の信頼性が向上。

▼東北縦貫自動車道・八戸自動車道（岩手県内）の通行止め実績（H26-H30年度）



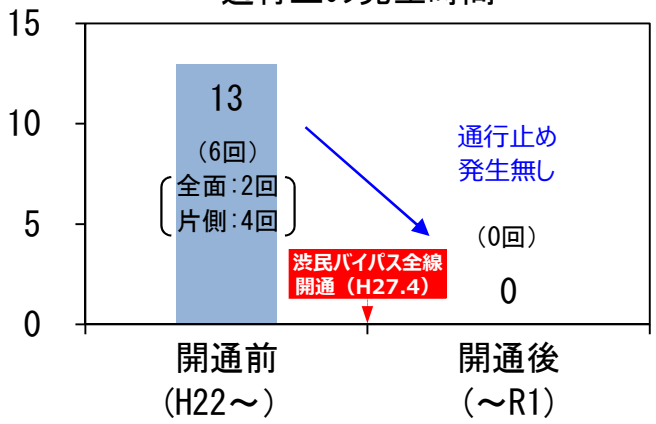
▼大雪による通行止め（H27開通区間現道）



撮影日：H22.12.31～H23.1.1

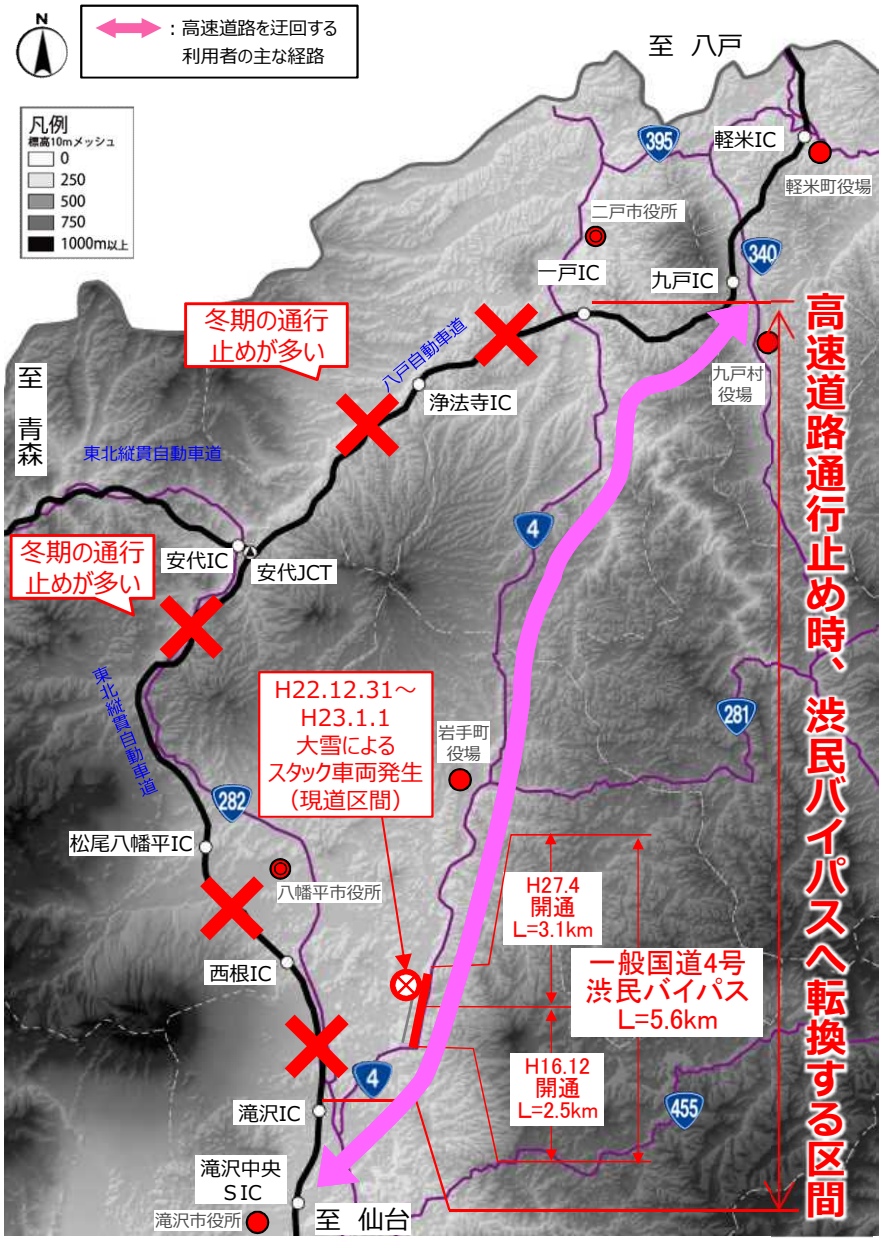
高速道路通行止め時、
渋民バイパス並行区間の
現道においても通行止めが発生

▼渋民バイパス及び並行現道区間の通行止め発生時間



資料：岩手河川国道事務所

渋民バイパス開通により代替性が確保

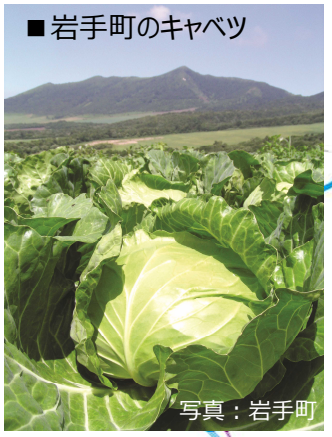


資料：国土地理院データを基に作成

4. 事業効果の発現状況（4） 地域産業の復興支援（キャベツ）

◆岩手町周辺地域は「夏秋キャベツ」の特産地であり、東北1位の出荷量を誇る。出荷の約9割が渋民バイパスを利用。
◆対象区間開通以前（H15）に比べ、「夏秋キャベツ」の販売数量・金額・単価は約1．2～1．8倍へ増加。
◆渋民バイパスの開通により、関東方面や盛岡市等への安定的な輸送ルートを確保し、地域の農業振興を支援。

■岩手町のキャベツ



※【着色箇所】岩手町周辺地域：岩手町、盛岡市玉山区、葛巻町

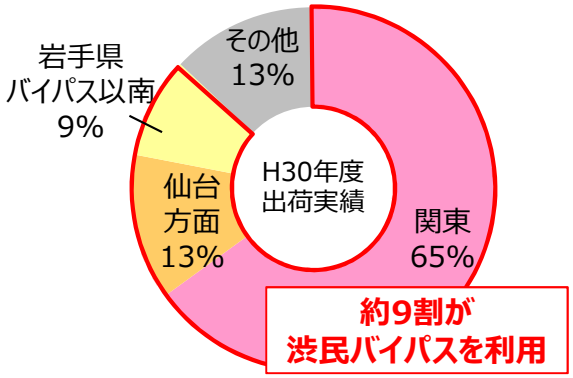
▼夏秋キャベツの東北地方 市町村別出荷量

順位	産地	出荷量
1	**岩手町（岩手県）**	**1.6万t**
2	おいらせ町（青森県）	0.5万t
3	一戸町（岩手県）	0.3万t
4	八幡平市（岩手県）	0.2万t

岩手町は東北1位の出荷量

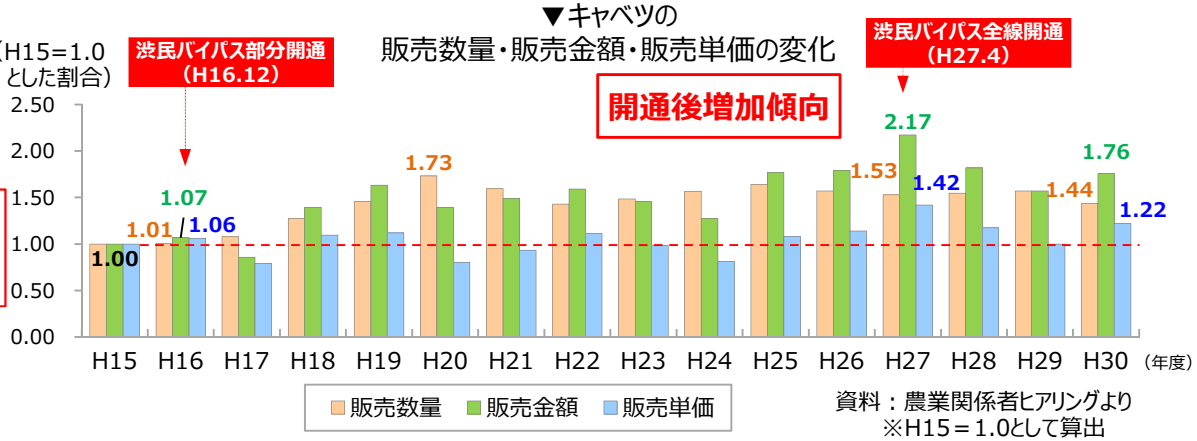
資料：H29農林水産省、作物統計調査

▼ 岩手町周辺地域におけるキャベツの出荷先



※岩手町周辺地域：岩手町、盛岡市玉山区、葛巻町
資料：農業関係者ヒアリングより（H30年度出荷実績）

▼キャベツの
販売数量・販売金額・販売単価の変化



資料：農業関係者ヒアリングより
※H15＝1.0として算出

《農業関係者の声》

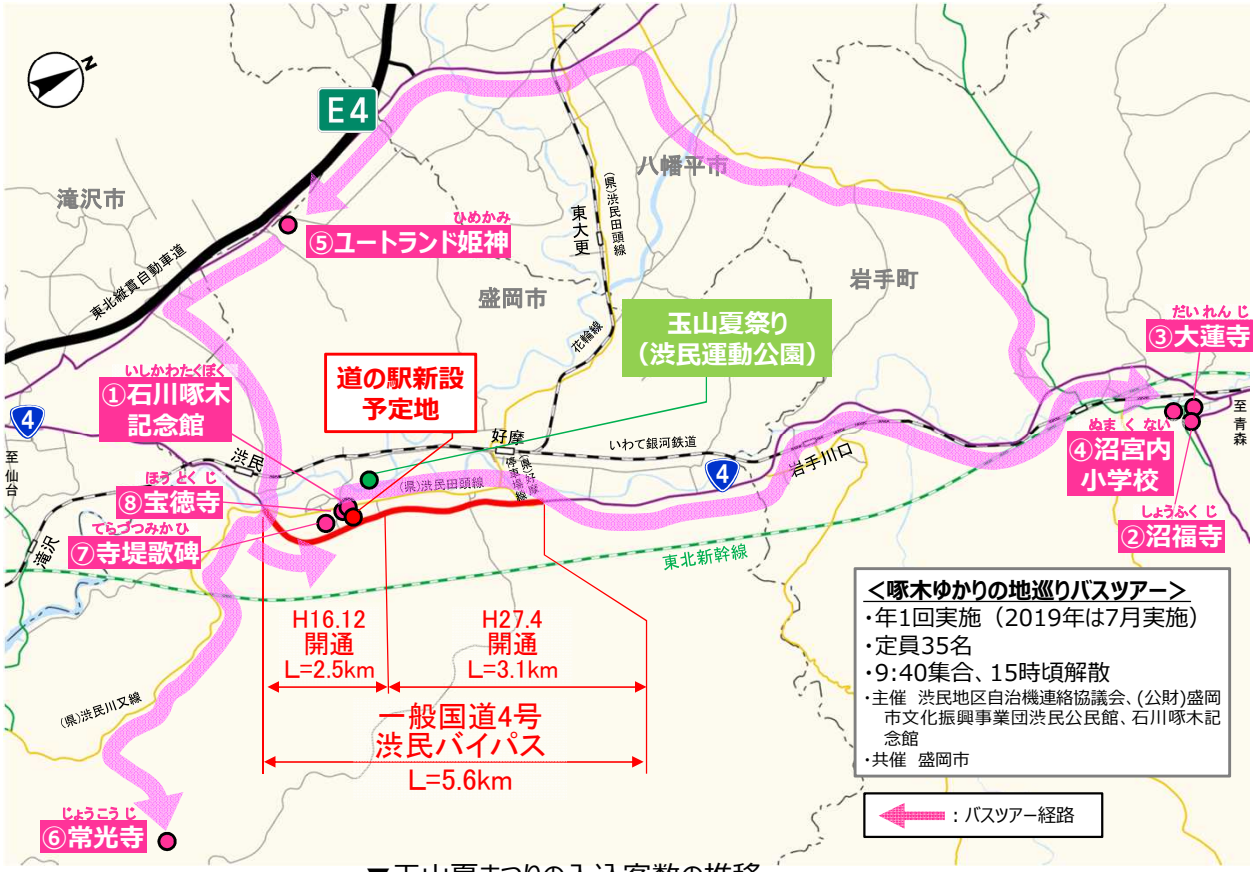
◆キャベツは鮮度管理が品質に関わる重要な品目です。保冷車で出荷する体制を整えていますが、**急いで出荷を行う必要**があります。

◆主に関東方面に出荷しており、**全て渋民バイパスを通行**するようになりました。道路の開通も要因の一つとなり、**時間短縮による単価向上、出荷量増加、販売額向上**に繋がりました。

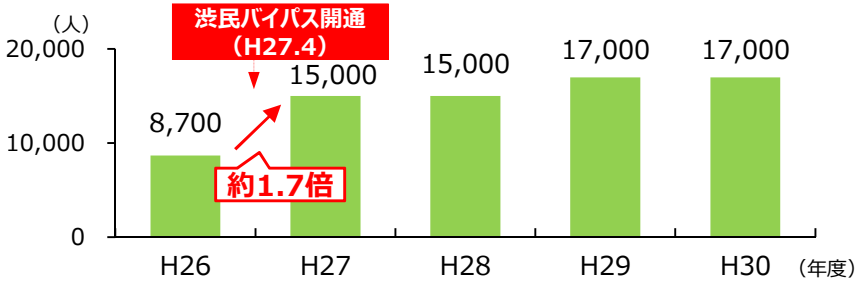
（R1.12 ヒアリング結果）

4. 事業効果の発現状況（5） 観光・地域交流支援

◆沿線では、歌人 石川啄木をイメージした道の駅が新設予定。対象地域では啄木ゆかりの地を巡るバスツアーが開催されている。
◆地域の夏祭りも開催されており、開通後は入込客数が約1．7倍に増加。
◆渋民バイパスの整備により、地域の活性化や観光ルートの形成に寄与。



▼玉山夏まつりの入込客数の推移



資料：盛岡市玉山総合事務所 産業振興課



資料：岩手日報 平成30年11月14日付

<新 道の駅 概要>
・歌人 石川啄木をイメージの柱として防災や交流機能を付与。
・R5年度開業予定。
・来客者数推計30万人。
・年間目標売上２億円。



資料：岩手県観光ポータルサイト

《自治体の声》

◆渋民地区では、毎年8月に玉山夏まつりを開催しています。渋民バイパスの全線開通により、**夏まつり参加者数は増加**しました。トラック等の通過交通と混在していた交通が現道を通過しなくなり、**玉山夏まつりの渋滞が減少**しました。

（R1.12 盛岡市玉山総合事務所 産業振興課ヒアリング結果）

5. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

別添一覧表参照

6. 事業実施による環境の変化

評価対象区間については、工事の実施及び完成後も環境への影響は確認されていない。

7. 社会経済情勢の変化

○周辺道路の整備状況

・国道４号

平成28年3月　盛岡北道路（ L=3.6km）開通

・国道４６号

平成25年12月　盛岡西バイパス（ L ＝7.8km）全線開通

・宮古盛岡横断道路（宮古～盛岡）

平成25年3月　簗川道路（ L=6.7km）開通

平成28年3月　都南川目道路（川目IC～田の沢IC、L=2.6km）開通

令和元年12月　都南川目道路（田の沢IC～手代森IC、L=3.4km）開通

・東北縦貫自動車道

平成30年3月　矢巾スマートIC　開通

平成31年4月　滝沢中央スマートIC　開通

8. 今後の事後評価及び改善措置の必要性

事業の目的に対する効果を概ね発現しており、現時点では今後の事後評価及び改善措置の必要性はないが、社会状況等の変化に応じて完成形の整備を検討する。

9. 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

当該事業の整備目的について効果発現を確認できており、事業評価手法の見直しの必要性はない。